



2020年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月10日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長 社長執行役員（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）IR室長（氏名）藤波 俊行 TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2019年10月11日

配当支払開始予定日 2019年11月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2020年2月期第2四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	75,756	△1.2	182	960.3	341	16.2	△873	—
2019年2月期第2四半期	76,687	4.3	17	△99.5	293	△91.1	△358	—

（注）包括利益 2020年2月期第2四半期 △816百万円（－％） 2019年2月期第2四半期 △460百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	△22.81	—
2019年2月期第2四半期	△9.35	—

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	87,410	58,686	66.4
2019年2月期	87,387	60,623	68.6

（参考）自己資本 2020年2月期第2四半期 58,019百万円 2019年2月期 59,923百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2020年2月期	—	30.00	—	—	—
2020年2月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	153,310	△0.4	650	—	1,070	647.2	△830	—	△21.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P.11「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年2月期2Q	44,392,680株	2019年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2020年2月期2Q	6,064,309株	2019年2月期	6,103,709株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年2月期2Q	38,307,600株	2019年2月期2Q	38,288,973株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- ・四半期決算補足説明資料は、2019年10月11日(金)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 11
(追加情報)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の激化や海外経済の減速傾向から輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかな回復基調が続きました。当外食産業におきましては、原材料価格や物流費、人手不足にともなう人件費の上昇等に加え、消費行動の多様化が進むなど、引き続き厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、商品力や店舗販売力の強化を目指すと共に、中長期での安定的な成長を見据え、FC化の推進や海外事業の強化と同時に、食品総合工場や子会社工場を活用し、商品の品質や生産性の向上を図るなど内製化の推進によって、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、757億56百万円(前年同期比1.2%減)、営業利益は1億82百万円(前年同期比960.3%増)、経常利益は3億41百万円(前年同期比16.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失は8億73百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失3億58百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高が前年同期実績を下回ったことが要因で前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、前年より実施してきた商品力強化による原価率の上昇等があったものの、効率的なプロモーション展開や店舗諸経費の改善等によって営業利益及び経常利益は前年同期実績を上回りました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失につきましては、9月以降退店予定のほっともっと直営店舗の固定資産に係る減損損失を計上したことなどによるものです。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第2四半期 連結累計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,748店	6店	28店	2,726店	53店
やよい軒	377店	6店	1店	382店	3店
MKレストラン	36店	1店	—	37店	5店
合計	3,161店	13店	29店	3,145店	61店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第2四半期 連結累計期間末
ほっともっと	中国	2店	1店	—	3店
	韓国	15店	2店	2店	15店
	オーストラリア	1店	—	—	1店
やよい軒	タイ	187店	6店	2店	191店
	シンガポール	8店	1店	—	9店
	オーストラリア	4店	—	—	4店
	台湾	18店	1店	—	19店
	アメリカ	3店	—	—	3店
	フィリピン	3店	2店	—	5店
	マレーシア	1店	—	—	1店
合計	—	242店	13店	4店	251店

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

【ほっともっと事業】

持ち帰り弁当のトップブランドとして、おいしいごはんにこだわり、厳選した高品質の国産米を使用し、店内調理によるできたてのお弁当を提供することを基本に、にんにくをふんだんに使用した旨味のある仕立ての「ガーリックカットステーキ重」や国産とろろとし醤油でさっぱりとした美味しさが引き立つ「もち麦カットステーキ重」を新発売するなど、付加価値を高めた商品でのプロモーション展開や店舗販売力の強化で、お客様の更なる満足度向上に注力しました。また、FC化の推進や、当社グループ店舗で使用する商材の内製化の推進に取り組みました。

以上の結果、売上高は538億円(前年同期比2.2%減)、営業損失は89百万円(前年同期は、営業損失2億33百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比1.6%減)が要因で、前年同期実績を下回りました。営業損失につきましては、前年に実施した商品力強化による原価率の上昇等があったものの、効率的なプロモーション展開や店舗諸経費の改善等によって前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、ブラックペッパーとガーリックを効かせたソースの「カットステーキ定食（ペッパーガーリックソース）」や、宮崎県の郷土料理冷汁と鶏天を組み合わせた「冷汁と鶏天の定食」を販売するなど、引き続きお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。また、「ユニットFC制度」を利用して新規オーナーの獲得を積極的に行うなど、FC化の推進に取り組みました。

以上の結果、売上高は156億23百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は7億14百万円（前年同期比11.2%増）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少（前年同期比2.2%減）があったものの、新規出店による店舗数の増加により、前年同期実績を上回りました。営業利益につきましては、原価率の上昇等があったものの、効率的なプロモーション展開や店舗諸経費の改善等によって前年同期実績を上回りました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定のスープや特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、タイスキ専門店へのリブランディングや、「タイフェスティバル」を実施するなど、売上の拡大や店舗収益の向上に努めました。

以上の結果、売上高は16億79百万円（前年同期比2.8%減）、営業損失は1億51百万円（前年同期は、営業損失11百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少（前年同期比6.1%減）により、前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、人件費やリブランディングに伴う販売促進費の増加などにより、前年同期実績を下回りました。

【海外事業】

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策の実行、食材の現地化による店舗原価低減、出店の推進等により、事業の黒字化を目指しました。

以上の結果、売上高は20億28百万円（前年同期比10.1%増）、営業損失は2億30百万円（前年同期は、営業損失3億5百万円）となりました。

【その他】

宮島醤油フレーバー(株)は、調味料・加工食品のOEM（相手先ブランド名製造）を主な事業としており、既存顧客への新商品提案を積極的に行うと共に、新規顧客獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用する調味料等の開発も行っており、商品数の拡大にも注力しました。

以上の結果、売上高は26億24百万円（前年同期比0.1%増）となりました。利益面につきましては、売上増にともない生産量が増加したものの、のれん代の償却があり、結果としては営業損失32百万円（前年同期は、営業損失46百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ23百万円増加し、874億10百万円となりました。内訳は、流動資産18億30百万円の増加、固定資産18億7百万円の減少であります。流動資産の増加は、現金及び預金18億85百万円の増加などによるものです。また、固定資産の減少は、有形固定資産20億80百万円の減少、投資その他の資産2億27百万円の増加などによるものです。有形固定資産の減少は、減損損失9億87百万円などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ19億59百万円増加し、287億23百万円となりました。内訳は、流動負債24億59百万円の増加、固定負債4億99百万円の減少であります。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金7億6百万円の増加、未払消費税等11億38百万円の増加などによるものです。固定負債の減少は、資産除去債務3億57百万円の減少などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ19億36百万円減少し、586億86百万円となりました。内訳は、利益剰余金20億22百万円の減少などであります。利益剰余金の減少は、親会社株主に帰属する四半期純損失8億73百万円、配当支払による11億48百万円の減少によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ18億70百万円増加し、90億91百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ13億9百万円増加し、59億24百万円となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純損失8億11百万円などがあった一方、減価償却費32億78百万円、減損損失9億87百万円、仕入債務の増加額7億11百万円、未払消費税等の増加額11億42百万円があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ19億3百万円減少し、29億99百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出27億87百万円、無形固定資産の取得による支出3億18百万円です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、10億85百万円となりました。主な内訳は、配当金の支払額11億49百万円です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の業績予想につきましては、2019年8月9日の「退店に伴う資産除去債務の追加計上および業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,447	9,332
受取手形及び売掛金	2,377	2,606
商品及び製品	5,368	5,328
原材料及び貯蔵品	163	184
その他	2,805	2,626
貸倒引当金	△303	△388
流動資産合計	17,859	19,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35,381	33,730
その他(純額)	14,797	14,368
有形固定資産合計	50,179	48,098
無形固定資産		
のれん	1,086	993
その他	1,834	1,972
無形固定資産合計	2,921	2,966
投資その他の資産		
その他	16,458	16,686
貸倒引当金	△31	△31
投資その他の資産合計	16,426	16,654
固定資産合計	69,527	67,719
資産合計	87,387	87,410
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,229	6,936
短期借入金	317	400
未払法人税等	545	429
賞与引当金	335	374
ポイント引当金	186	249
株主優待引当金	162	56
資産除去債務	22	407
その他	8,763	10,167
流動負債合計	16,562	19,021
固定負債		
長期借入金	1,299	1,270
退職給付に係る負債	81	88
資産除去債務	5,671	5,313
その他	3,148	3,028
固定負債合計	10,201	9,701
負債合計	26,763	28,723

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,777	4,760
利益剰余金	63,537	61,514
自己株式	△11,897	△11,820
株主資本合計	59,878	57,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	0
為替換算調整勘定	22	104
その他の包括利益累計額合計	44	104
新株予約権	266	236
非支配株主持分	433	430
純資産合計	60,623	58,686
負債純資産合計	87,387	87,410

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
売上高	76,687	75,756
売上原価	37,186	37,776
売上総利益	39,500	37,979
販売費及び一般管理費	39,483	37,796
営業利益	17	182
営業外収益		
受取利息	17	14
受取配当金	2	2
固定資産賃貸料	68	68
受取補償金	20	35
受取保険金	116	81
その他	123	142
営業外収益合計	348	344
営業外費用		
固定資産賃貸費用	3	3
持分法による投資損失	19	20
為替差損	12	124
貸倒引当金繰入額	1	—
その他	34	37
営業外費用合計	72	186
経常利益	293	341
特別利益		
固定資産売却益	0	0
補助金収入	—	109
特別利益合計	0	110
特別損失		
固定資産処分損	240	174
減損損失	73	987
固定資産圧縮損	—	100
その他	4	1
特別損失合計	317	1,263
税金等調整前四半期純損失(△)	△24	△811
法人税等	332	62
四半期純損失(△)	△356	△874
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△358	△873

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
四半期純損失(△)	△356	△874
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	△21
為替換算調整勘定	△77	105
持分法適用会社に対する持分相当額	△11	△25
その他の包括利益合計	△103	58
四半期包括利益	△460	△816
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△463	△814
非支配株主に係る四半期包括利益	3	△2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△24	△811
減価償却費	2,771	3,278
減損損失	73	987
のれん償却額	110	93
有形及び無形固定資産除却損	240	174
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	59	85
賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	39
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	20	6
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	0	63
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	△63	△105
受取利息及び受取配当金	△19	△16
為替差損益 (△は益)	9	57
持分法による投資損益 (△は益)	19	20
有形及び無形固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	146	△236
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△594	17
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,595	711
未払費用の増減額 (△は減少)	338	173
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△57	1,142
預り金の増減額 (△は減少)	456	456
その他	86	155
小計	5,165	6,289
利息及び配当金の受取額	19	16
利息の支払額	△3	△5
法人税等の支払額	△566	△375
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,615	5,924
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,532	△27
定期預金の払戻による収入	6,012	12
有形固定資産の取得による支出	△6,709	△2,787
有形固定資産の除却による支出	△44	△83
有形固定資産の売却による収入	12	0
無形固定資産の取得による支出	△479	△318
貸付けによる支出	△169	△20
貸付金の回収による収入	143	112
差入保証金の差入による支出	△220	△74
差入保証金の回収による収入	86	86
その他	△2	100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,903	△2,999
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	956	—
短期借入金の返済による支出	△856	△51
長期借入れによる収入	1,273	142
長期借入金の返済による支出	△16	△11
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△1,149	△1,149
その他	△12	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	195	△1,085

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	29
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△119	1,870
現金及び現金同等物の期首残高	11,181	7,221
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	128	—
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△62	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,126	9,091

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	55,016	15,477	1,728	1,841	74,064	2,622	—	76,687
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	293	38	—	—	331	809	△1,141	—
計	55,310	15,515	1,728	1,841	74,396	3,432	△1,141	76,687
セグメント利益又は損失(△)	△233	642	△11	△305	92	△46	△28	17

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	53,800	15,623	1,679	2,028	73,132	2,624	—	75,756
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	290	40	—	—	331	927	△1,259	—
計	54,090	15,664	1,679	2,028	73,463	3,551	△1,259	75,756
セグメント利益又は損失(△)	△89	714	△151	△230	243	△32	△27	182

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ほっともっと事業」セグメント及び「MKレストラン事業」セグメントにおいて、退店を予定している店舗資産について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ954百万円及び32百万円であります。